

專門看護師教育課程

高度実践看護師教育課程

1. 本学大学院保健学研究科看護学専攻に高度実践看護師としての専門看護師育成のための専門看護師教育課程が置かれている。

2. 各科目の学位授与方針との関連は以下に基づいている。

*高い倫理観と国際的視野

看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。

*看護・保健領域の高度専門職業人としての知識

看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。

*看護・保健領域の高度専門職業人としての技術

看護実践者および高度実践看護師(専門看護師)として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。

*看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力

看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。

組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。

*課題解決のための広い視野と学際的識見

看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。

*研究遂行能力

看護領域における課題について、研究計画の立案・遂行し論文が作成できる。また、プレゼンテーション能力を身につけ、研究内容を発表することができる。

3.専門看護師教育課程と受験資格に必要な科目

以下の共通科目ならびに当該分野における科目を全て履修し、単位を修得すること。

<専門看護師教育課程（38単位）>

【 専門看護師教育課程共通科目の照合表 】

科 目	大学院の該当科目	履修単位	認定単位
看護教育論	看護教育学特論	2	2
看護管理論	看護管理学特論	2	2
看護研究	看護研究方法論	2	2
コンサルテーション論	コンサルテーション論	2	2
フィジカルアセスメント	フィジカルアセスメント	2	2
病態生理学	病態生理学	2	2
臨床薬理学	臨床薬理学	2	2

【 専門看護分野：がん看護 】

科 目	大学院の該当科目	履修単位	認定単位
がん看護に関する病態生理学	がん看護学特論Ⅰ	2	2
がん看護に関する理論	がん看護学特論Ⅱ	2	2
がん治療支援に関わる看護援助論	がん看護学演習Ⅰ	2	2
がん薬物療法看護	がん看護学特論Ⅲ	2	2
	がん看護学演習Ⅱ	2	2
緩和ケア	がん看護学特論Ⅳ	4	4
実習	がん看護学実習		
	・がん看護学実習Ⅰ	2	2
	・がん看護学実習Ⅱ	4	4
	・がん看護学実習Ⅲ	4	4

【専門看護分野：クリティカルケア看護】

科 目	大学院の該当科目	履修単位	申請単位
危機とストレスに関する科目	クリティカルケア看護学特論Ⅰ	2	2
重症患者の代謝病態生理学に関する科目	病態治療論	2	2
クリティカルケア治療管理に関する科目	クリティカルケア看護学演習Ⅰ	2	2
クリティカルケア看護援助に関する科目Ⅰ	クリティカルケア看護学特論Ⅱ	2	2
クリティカルケア看護援助に関する科目Ⅱ	クリティカルケア看護学特論Ⅲ	2	2
クリティカルケア看護援助に関する科目Ⅲ	クリティカルケア看護学演習Ⅱ	2	2
クリティカルケア看護援助に関する科目Ⅳ	クリティカルケア看護学演習Ⅲ	2	2
クリティカルケア看護実習	クリティカルケア看護学実習		
	・クリティカルケア看護学実習Ⅰ	2	2
	・クリティカルケア看護学実習Ⅱ	3	3
	・クリティカルケア看護学実習Ⅲ	3	3
	・クリティカルケア看護学実習Ⅳ	2	2

【専門看護分野：精神看護】

科 目	大学院の該当科目	履修単位	認定単位
歴史・法制度に関する科目	精神看護学特論Ⅰ	2	2
精神・身体状態の評価に関する科目	精神看護学特論Ⅱ	2	2
精神科治療技法に関する科目	精神看護学特論Ⅲ	2	2
	精神看護学演習Ⅰ	2	2
精神看護理論、援助技法に関する科目	精神看護学特論Ⅳ	2	2
	精神看護学演習Ⅱ	2	2
リエゾン精神看護	精神看護学特論Ⅴ	2	2
実習	精神看護学実習		
	・精神看護学実習Ⅰ	2	2
	・精神看護学実習Ⅱ	2	2
	・精神看護学実習Ⅲ	6	6

【専門看護師教育課程（38単位）】

共通科目A照合表

基準の科目名	大学院の該当科目	その科目の内容	単位	
			履修単位	認定単位
看護教育論	看護教育学特論	看護ケアの質を高めるために必要な教育の原理とその機能を理解し、高度実践看護師として教育的働きかけができる能力を修得する。また、教育環境の整備、継続教育や生涯教育についても学びを深める。	2	2
看護管理論	看護管理学特論	看護管理におけるマネジメント、リーダーシップ、多職種との協働・調整、安全管理、スタッフ教育や意思決定について学び、看護管理における分析の視点や問題解決能力を養い、実践に必要な能力を修得する。	2	2
看護研究	看護研究方法論	科学的根拠に基づいた看護実践を展開する上で必要な看護技術の向上や開発を図るために、研究プロセスを理解し、看護実践における研究活動に必要な基礎的研究能力を修得する。	2	2
コンサルテーション論	コンサルテーション論	高度実践看護師としての役割遂行に必要な能力を深めるため、コンサルテーションの基本的概念とプロセスを理解し、コンサルタントとしての技術を養いコンサルテーションの実践に必要な能力を修得する。	2	2
			認定合計単位 8単位	

共通科目B照合表

基準の科目名	大学院の該当科目	その科目の内容	単位	
			履修単位	認定単位
臨床薬理学	臨床薬理学	対象の健康問題に応じた薬物治療が効果的かつ安全に行われるために、薬物の生体に対する生理学的、生化学的な影響、作用メカニズム、薬物動態について理解し、回復力の促進に向けた生活調整や服薬管理能力の向上に必要な知識と技術を修得する。	2	2
フィジカルアセスメント	フィジカルアセスメント	複雑な健康問題を抱える対象の身体状況を包括的に査定するために必要なフィジカルアセスメントの知識と技術を修得する。	2	2
病態生理学	病態生理学	身体の生理学的メカニズムを理解し、疾病の成因、症状および診断・治療についての知識を深め、対象の病態生理学的変化の解釈、判断に必要な技術を修得する。	2	2
			履修合計単位 6単位	

看護教育学特論（共通科目）

2 単位：30 時間（春学期）

科目責任者 中島 恵美子（本学教授）

1. 教育目的：看護ケアの質を高めるために必要な教育の原理とその機能を理解し、高度実践看護師として教育的働きかけができる能力を修得する。また、教育環境の整備、継続教育や生涯教育について学びを深める。
2. 教育目標：
 - 1) 教育的機能の原理を学ぶ。
 - 2) 高度実践看護師に必要とされる教育的機能を理解し、実践で活用できる方法を学ぶ。
 - 3) 高度実践看護師の能力向上に必要な継続教育の実際について学ぶ。
3. 教育内容：
 - ① 看護教育学総論
 - ② 看護基礎教育と継続教育の概要と展望
 - ③ 看護教育における教育評価
 - ④ 患者教育における指導と評価
 - ⑤ 高度実践看護師の教育的機能の理論と実際
 - ⑥ 高度実践看護師育成プログラムと教育的機能
 - ⑦ 高度実践看護師の役割機能と実際(1)
 - ⑧ 高度実践看護師の役割機能と実際(2)
 - ⑨ 高度実践看護師の役割機能と実際(3)
 - ⑩ 高度実践看護師の継続教育の実際
 - ⑪ 高度実践看護師の継続教育とその課題
 - ⑫ 看護実践におけるスタッフ教育(1)
 - ⑬ 看護実践におけるスタッフ教育(2)
 - ⑭ 看護ケア向上のための能力開発(エンパワメントと看護教育)
 - ⑮ 看護ケア向上のための能力開発(ケアリングと看護教育)
4. 教育の進め方：

講義、学生のプレゼンテーションで行う。

初回の講義において進め方、課題について具体的に説明する。

(1) 講義・討議：①②③⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪

(2) 発表・討議：④⑫⑬⑭⑮

【教科書・参考図書】

杉森みど里，舟島なをみ著(2021)看護教育学. 第7版, 医学書院.

田島桂子著(2009)看護学教育評価の基礎と実際-看護実践能力育成の充実に向けて. 医学書院.

Ann B. Hamric, Charlen M. Hanon, Mary Fran Tracy, Eileen T. OGrady. (2014)ADVANCED PRACTICE NURSING An Integrative Approach. 5rd edition/中村美鈴, 江川幸二訳(2017)高度実践看護 統合的アプローチ. へるす出版. その他、参考図書については適宜、紹介する。

【事前学習】講義: 各回で扱うテーマに関連する内容についてまとめ、疑問点を整理しておく。

発表: 発表資料を作成し、討議したい点について明らかにしておく。

【事後学習】講義内容、討議内容について振り返り、復習する。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

看護管理学特論（共通科目）

2 単位：30 時間（春学期）

科目責任者 佐藤 澄子（本学非常勤講師）

1. 教育目的：看護管理におけるマネジメント、リーダーシップ、多職種との協働・調整、安全管理、スタッフ教育や意思決定について学び、看護管理における分析の視点や問題解決力を養い実践に必要な能力を修得する。
2. 教育目標：
 - 1) 看護管理における機能・役割について理解できる。
 - 2) 看護管理に関する質の高い実践能力を養うことができる。
 - 3) 保健医療福祉や看護管理に携わる人々と協働・調整を図ることができる。
 - 4) 高度実践看護師の役割遂行に必要な看護管理のあり方を考察できる。
3. 教育内容：
 - ① 看護管理学総論
 - ② 看護管理における人材育成とキャリア開発
 - ③ 組織における意思決定とマネジメント(1)
 - ④ 組織における意思決定とマネジメント(2)
 - ⑤ 組織におけるリーダーシップ行動とマネジメント能力の開発(理論と実際 1)
 - ⑥ 組織におけるリーダーシップ行動とマネジメント能力の開発(理論と実際 2)
 - ⑦ 医療の質と看護サービスの質評価と改善
 - ⑧ 看護職と保健医療福祉の多職種協働に影響を及ぼす政策・制度(1)
 - ⑨ 看護職と保健医療福祉の多職種協働に影響を及ぼす政策・制度(2)
 - ⑩ 医療安全管理(1)
 - ⑪ 医療安全管理(2)
 - ⑫ 看護管理実践における諸理論と人的資源管理(1)
 - ⑬ 看護管理実践における諸理論と人的資源管理(2)
 - ⑭ 看護管理実践過程における課題解決方法(1)
 - ⑮ 看護管理実践過程における課題解決方法(2)
4. 教育の進め方：

講義、学生のプレゼンテーションで進行する。

初回の講義において進め方、課題について具体的に説明する。

(1) 講義・討議：①②⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪

(2) 発表・討議：③④⑫⑬⑭⑮

【教科書・参考図書】ガイダンス時に指示する。

【事前学習】講義：各回で扱うテーマに関連する内容についてまとめ、疑問点を整理しておく。

発表：発表資料を作成し、討議したい点について明らかにしておく。

【事後学習】講義内容、討議内容について振り返り、復習する。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

看護研究方法論（共通科目）

2 単位：30 時間（春学期）

科目責任者 大木 幸子（本学教授）

1. 教育目的：科学的根拠に基づいた看護実践を展開する上で必要な看護技術の向上や開発を図るために、研究プロセスを理解し、看護実践における研究活動に必要な基礎的研究能力を修得する。
2. 教育目標：1) 看護実践における問題意識から研究課題を導くことが理解できる。
2) 研究課題から研究目的と方法が理解できる。
3) 研究論文のクリティークを行うことができる。
4) 研究成果の活用方法が理解できる。
3. 教育内容：
 - ① 看護研究の意義と役割
 - ② 文献検索演習
 - ③ 研究課題の決定と位置づけの検討、論文クリティーク
 - ④ 量的研究方法の概要(1)
 - ⑤ 量的研究方法の概要(2)
 - ⑥ 量的研究における測定方法の計画
 - ⑦ 量的研究におけるデータ分析(1)
 - ⑧ 量的研究におけるデータ分析(2)
 - ⑨ 量的研究におけるデータ分析(3)
 - ⑩ 量的研究における論文クリティーク
 - ⑪ 質的研究方法の基本的考え方
 - ⑫ 質的研究方法の概要(1)
 - ⑬ 質的研究方法の概要(2)
 - ⑭ 質的研究における論文クリティーク
 - ⑮ 研究成果の臨床への応用
4. 教育の進め方：

講義、学生のプレゼンテーションを中心に行う。

初回の講義において進め方、課題等について具体的に説明する。

(1) 講義・討議：①③④⑤⑥⑪⑮

(2) 文献検索演習：②

(3) 発表・討議：⑦⑧⑨⑩⑫⑬⑭

【教科書・参考図書】 ガイダンス時に指示する。

【事前学習】 講義：各回で扱うテーマに関連する内容についてまとめ、疑問点を整理しておく。

発表：発表資料を作成し、討議したい点について明らかにしておく。

【事後学習】 講義内容、文献検索演習内容、討議内容について振り返り、復習する。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

コンサルテーション論（共通科目）

2 単位：30 時間（秋学期）

科目責任者 浅沼 奈美（本学教授）

1. 教育目的：高度実践看護師としての役割遂行に必要な能力を深めるため、コンサルテーションの基本概念とプロセスを理解し、コンサルタントとしての技術を養い、コンサルテーションの実践に必要な能力を修得する。
2. 教育目標：1) 講義や事例分析などからコンサルタントとしての技術を養うことができる。
2) コンサルテーションの現状と課題を明らかにすることができる。
3. 教育内容：
 - ① コンサルテーションの基本概念
 - ② コンサルテーションの役割機能とプロセス
 - ③ コンサルテーションと高度実践看護師の役割（1）
 - ④ コンサルテーションと高度実践看護師の役割（2）
 - ⑤ 高度実践看護師によるコンサルテーションの実際（1）
 - ⑥ 高度実践看護師によるコンサルテーションの実際（2）
 - ⑦ 看護組織におけるコンサルテーション
 - ⑧ 多職種チームとコンサルテーション
 - ⑨ コンサルテーションの実際 - ロールプレイ（1）
 - ⑩ コンサルテーションの実際 - ロールプレイ（2）
 - ⑪ コンサルテーションの実際 - 事例分析（1）
 - ⑫ コンサルテーションの実際 - 事例分析（2）
 - ⑬ コンサルテーションの実際 - 事例分析（3）
 - ⑭ コンサルテーションの実際 - 事例分析（4）
 - ⑮ 高度実践看護師によるコンサルテーションの現状と課題
4. 教育の進め方：

学生のプレゼンテーション、ロールプレイを中心とし、講義を入れながら行う。
初回の講義において進め方、課題について具体的に説明する。

 - (1) 講義・討議：①②⑤⑥⑦⑧⑨
 - (2) 発表・討議：③④⑫⑬⑭⑮
 - (3) グループワーク：⑩⑪⑫⑬⑭

【教科書・参考図書】ガイダンス時に指示する。

【事前学習】講義：各回で扱うテーマに関連する内容についてまとめ、疑問点を整理しておく。
発表：発表資料を作成し、討議したい点について明らかにしておく。
グループワーク：テーマに従い内容についてまとめ、疑問点を整理しておく。

【事後学習】講義内容、討議内容、グループワークについて振り返り、復習する。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

フィジカルアセスメント（共通科目）

2 単位：30 時間（春学期）

科目責任者 加賀谷 聡子（本学教授）

1. 教育目的：複雑な健康問題を抱える対象の身体状況を包括的に査定するために必要なフィジカルアセスメントの知識と技術を修得する。
2. 教育目標：1) フィジカルアセスメントの概念を理解しその意義が説明できる。
2) フィジカルイグザミネーションの技法を習得し、対象の症状、身体所見の正常・異常について識別し解釈できる。
3) 対象者の健康問題が日常生活に与える影響をアセスメントし臨床判断ができる。
4) アセスメントの結果を看護支援の根拠および効果測定・評価の指針にできる。
3. 教育内容：
 - ①②フィジカルアセスメント 総論
 - ③④精神機能のアセスメント
 - ⑤⑥呼吸器系のフィジカルアセスメント
 - ⑦⑧呼吸器系のフィジカルイグザミネーションの実際
 - ⑨⑩循環器系のフィジカルアセスメント
 - ⑪⑫循環器系のフィジカルイグザミネーションの実際
 - ⑬⑭消化器系・内分泌代謝系のフィジカルアセスメント
 - ⑮⑯消化器系・内分泌代謝系のフィジカルイグザミネーションの実際
 - ⑰⑱腎・泌尿器系のフィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーションの実際
 - ⑲⑳女性生殖器系のフィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーションの実際
 - ㉑㉒運動器系のフィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーションの実際
 - ㉓㉔感覚器系のフィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーションの実際
 - ㉕㉖中枢神経系のフィジカルアセスメント
 - ㉗㉘中枢神経系のフィジカルイグザミネーションの実際
 - ㉙㉚フィジカルアセスメントの統合(臨床所見と統合的臨床判断の実際まとめ)
4. 教育の進め方：フィジカルアセスメントの方法について講義とシミュレータ機器を活用した技術演習を行う。初回の講義において進め方について説明する。
 - (1) 講義・討議：①②③⑤⑥⑨⑩⑬⑭⑮⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖
 - (2) 演習：④⑦⑧⑪⑫⑮⑯⑰⑱㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘
 - (3) 発表・討議：㉙㉚

【教科書・参考図書】ガイダンス時に指示する。

【事前学習】講義・演習：各回で扱うテーマに関連する解剖生理およびフィジカルイグザミネーションの基本的手技について確認し、疑問点を整理しておく。

発表：資料を作成し、討議したい点について明らかにしておく。

【事後学習】講義・演習・討議内容について振り返り、復習する。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

病態生理学（共通科目）

2 単位：30 時間（春学期）

科目責任者 岩楯 桜子（本学教授）

1. 教育目的：身体の生理学的メカニズムを理解し、疾病の成因、症状および診断・治療についての知識を深め、対象の病態生理学的変化の解釈、判断に必要な技術を修得する。
2. 教育目標：1)各組織の生理学的変化の機能・構造とその病理学的現象とを関連付けて説明できる。
2)機能異常をきたした疾患の病態生理学的変化を理解し、判断することができる。
3)診断に必要な検査について理解し、対象に必要な支援につなげることができる。
3. 教育内容：
 - ①② 病態生理学総論
 - ③④ 呼吸障害の発症のメカニズム
 - ⑤⑥ 循環障害の発症のメカニズム
 - ⑦⑧ 消化・吸収機能障害の発症のメカニズム
 - ⑨⑩ 内分泌・代謝機能障害の発症のメカニズム
 - ⑪⑫ 脳・神経機能障害の発症のメカニズム
 - ⑬ 腎機能障害の発症のメカニズム
 - ⑭ 感覚器障害の発症のメカニズム
 - ⑮ 専門看護師に必要とされる病態生理学の知識と判断
4. 教育の進め方：

講義を中心として進めるが、必要に応じ学生によるプレゼンテーション並びにグループワークを行う。初回の講義において進め方、課題について具体的に説明する。

 - (1) 講義・討議：①～⑭
 - (2) 発表・討議：⑮

【教科書・参考図書】ガイダンス時に指示する。

【事前学習】講義：各回で扱うテーマに関連する内容についてまとめ、疑問点を整理しておく。
発表：発表資料を作成し、討議したい点について明らかにしておく。

【事後学習】講義内容、討議内容について振り返り、復習する。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

臨床薬理学（共通科目）

2単位：30時間（春学期）

科目責任者 西村 伸大（本学准教授）

1. 教育目的：対象の健康問題に応じた薬物治療が効果的かつ安全に行われるために、薬物の生体に対する生理学的、生化学的な影響、作用メカニズム、薬物動態について理解し、回復力の促進に向けた薬物療法の継続に必要な知識と技術を修得する。
2. 教育目標：1) 薬物の体内動態、薬物の薬力学を理解し、薬剤使用の判断ができる。
2) 病態に応じた薬物治療について理解できる。
3) 対象への安全な薬剤投与方法を理解し、投与後の患者モニタリングができる。
4) 薬物療法を受ける対象の生活調整や、服薬管理能力の向上を図るための支援のあり方が理解できる。
3. 教育内容
 - ① 臨床薬理学総論（1）
 - ② 臨床薬理学総論（2）
 - ③ 薬物の体内動態
 - ④ 薬物の相互作用
 - ⑤ 交感神経系作用薬
 - ⑥ 副交感神経系作用薬
 - ⑦ 中梢神経系作用薬（1）
 - ⑧ 中梢神経系作用薬（2）
 - ⑨ 中梢神経系作用薬（3）
 - ⑩ 中梢神経系作用薬（4）
 - ⑪ 消化管機能調整薬
 - ⑫ 内分泌・代謝系作用薬
 - ⑬ 抗悪性腫瘍薬（1）
 - ⑭ 抗悪性腫瘍薬（2）
 - ⑮ 薬物療法を受ける患者への薬物管理と生活調整の支援
4. 教育の進め方：

講義を中心として進めるが、必要に応じ学生によるプレゼンテーション並びにグループワークを行う。初回の講義において進め方、課題について具体的に説明する。

(1) 講義・討議：①～⑭

(2) 発表・討議：⑮

【教科書・参考図書】ガイダンス時に指示する。

【事前学習】講義：各回で扱うテーマに関連する内容についてまとめ、疑問点を整理しておく。

発表：発表資料を作成し、討議したい点について明らかにしておく。

【事後学習】講義内容、討議内容について振り返り、復習する。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

専攻教育課程照合表

専門看護分野：がん看護

	科目	大学院該当科目	その科目の内容	履修 単位	認定 単位
専攻分野 共通科目	1. がん看護に関する病態生理学	がん看護学特論Ⅰ	がんの分子生物学、遺伝学を含むがんの病態を学ぶ。また、多角的視点から病因・病態を解析、アセスメントする方法を学び、エビデンスに基づき臨床判断できる能力を修得する。	2	2
	2. がん看護に関する理論	がん看護学特論Ⅱ	がん看護の実践に必要とされる主要な理論や概念の基礎を学び、その活用方法について探求する。	2	2
	3. がん治療支援に関わる看護援助論	がん看護学演習Ⅰ	がん患者と家族の特徴を理解し、複雑な健康問題に対する包括的な支援ができるよう理論や概念を活用した看護援助方法について実践的に探求する。	2	2
専攻分野 専門科目	1. がん薬物療法看護	がん看護学特論Ⅲ	がん薬物療法の有害事象の予防と対処方法、症状マネジメントの方略を学び、患者・家族の QOL の向上に向けた看護支援の方法を探求する。	2	2
		がん看護学演習Ⅱ	がん薬物療法を受ける患者に対するアセスメント方法、および有害事象に対する援助方法を修得し、治療中の QOL 向上に向けた看護支援について探求する。	2	2
	2. 緩和ケア	がん看護学特論Ⅳ	がんの診断から終末期まで、がんによってもたらされる苦痛を理解し、QOL の維持向上に向けて、キュアとケアを統合し包括的かつ実践的な援助方法を探求する。	4	4
実習科目	実習	・がん看護学実習Ⅰ	高度実践看護師の役割である、実践、教育、相談、ケア調整、倫理調整、研究について、がん看護専門看護師の活動を通して学び、がん看護専門看護師に求められる役割を探求する	2	2
		・がん看護学実習Ⅱ	がん薬物療法を受ける患者の診断、治療に伴う臨床判断、身体管理について、がん看護専門看護師および医師の指導を受け、高度な看護実践能力を修得する。	4	4
		・がん看護学実習Ⅲ	様々な困難や複雑な状況を抱え、緩和ケアを必要とするがん患者・家族に対し、がん看護専門看護師および医師の指導を受け、高度な看護実践能力を修得する。また、多職種と連携し、がん医療における様々な療養の場に必要な地域連携の実践を学ぶ。	4	4
				認定合計単位 24 単位	

がん看護学特論 I

2 単位：30 時間（春学期）

科目責任者 量 倫子（本学講師）

1. 教育目的：多角的視点から病因・病態を解析、アセスメントする方法を学び、エビデンスに基づき臨床判断できる能力を修得する。

2. 教育目標：1) がんの臨床所見から病態を理解するための知識を養う。
2) 事例の討議から看護実践に活用できるアセスメント方法を学ぶ。
3) 学んだ知識から看護ケアに活用できる能力を養う。

3. 教育内容：

- ① がんの特異とされる病因・病態像
- ② がんの治療（1）
- ③ がんの治療（2）
- ④ 呼吸器に発生する悪性腫瘍の病因・病態像とデータ解析（1）
- ⑤ 呼吸器に発生する悪性腫瘍の病因・病態像とデータ解析（2）
- ⑥ 女性生殖機能に発生する悪性腫瘍の病因・病態とデータ解析（1）
- ⑦ 女性生殖機能に発生する悪性腫瘍の病因・病態とデータ解析（2）
- ⑧ 消化器に発生する悪性腫瘍の病因・病態とデータ解析（1）
- ⑨ 消化器に発生する悪性腫瘍の病因・病態とデータ解析（2）
- ⑩ 消化器に発生する悪性腫瘍の病因・病態とデータ解析（3）
- ⑪ 消化器に発生する悪性腫瘍の病因・病態とデータ解析（4）
- ⑫ 代謝機能に発生する悪性腫瘍の病因・病態とデータ解析
- ⑬ 血液・造血器に発生する悪性腫瘍の病因・病態とデータ解析
- ⑭ がんに伴う諸症状の病態生理とアセスメント（1）
- ⑮ がんに伴う諸症状の病態生理とアセスメント（2）

4. 教育の進め方：講義、学生の発表と討議で進行する。

講義・討議：①～⑬、発表・討議：⑭⑮

【教科書・参考図書】ガイダンス時に指示する。

【事前学習】講義：講義の各回の病態生理についてまとめ、疑問点を整理しておく。

発表：発表資料を作成し、討議したい点について明らかにしておく。

【事後学習】講義内容、討議内容を振り返り、復習する。

5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

がん看護学特論Ⅱ

2 単位：30 時間（春学期）

科目責任者 橋爪 可織（本学講師）

1. 教育目的：がん看護の実践に必要とされる主要な理論や概念の基礎を学び、その活用方法について探求する。

2. 教育目標：1) がん看護に必要な理論・概念を理解できる。

2) がん患者がたどる急性期、慢性期、終末期の援助の基礎となる理論について理解できる。

3) 諸理論・概念を活用し、事例分析を行うことができる。

3. 教育内容：

① がん看護に必要な理論の概説

② がんサバイバーシップ

③ 意思決定支援 (1)

④ 意思決定支援 (2)

⑤ 危機的状況にあるがん患者の支援に必要な理論（危機理論）

⑥ 危機的状況にあるがん患者の支援に必要な理論（ストレス理論）

⑦ 治療期におけるがん患者のセルフケアを支援するための理論

（セルフマネジメントモデル 1）

⑧ 治療期におけるがん患者のセルフケアを支援するための理論

（セルフマネジメントモデル 2）

⑨ 終末期に必要とされる理論（死の受容）

⑩ 終末期に必要とされる理論（悲嘆のプロセス）

⑪ がん患者の倫理的問題の解決に必要な理論

（臨床倫理 4 分割法／トンプソン・モデル）

⑫ 理論を活用した事例分析(事例展開)

⑬ 理論を活用した事例分析(事例展開)

⑭ 理論を活用した事例分析(事例展開)

⑮ がん看護専門看護師の実践に向けての検討

4. 教育の進め方：講義、学生の発表と討議で進行する。

講義・討議：①～⑪、発表・討議：⑫～⑮

【教科書・参考図書】ガイダンス時に指示する。

【事前学習】講義：各回で取り上げる諸理論・概念についてまとめ、疑問点を整理しておく。

発表：発表資料を作成し、討議したい点について明らかにしておく。

【事後学習】講義内容、討議内容を振り返り、復習する。

5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

がん看護学特論Ⅲ

2 単位：30 時間（秋学期）

科目責任者 中島 恵美子（本学教授）

1. 教育目的：がん薬物療法の有害事象の予防と対処方法、症状マネジメントの方略を学び患者・家族の QOL の向上に向けた看護支援の方法を探究する。
2. 教育目標：
 - 1) 様々ながん薬物療法の特徴について理解できる。
 - 2) 治療による有害事象に対する症状マネジメントについて説明できる。
 - 3) がん薬物療法の臨床試験を受ける患者・家族への看護支援について説明できる。
3. 教育内容：
 - ① がん薬物療法総論
 - ②③ 化学療法（細胞障害性抗がん薬）の基礎
 - ④⑤ がん薬物療法と症状マネジメント（1）
；過敏症、血管外漏出、悪心・嘔吐、食欲不振、口内炎、下痢、便秘
 - ⑥⑦ がん薬物療法と症状マネジメント（2）
；骨髄抑制、皮膚障害、神経障害、性機能障害
 - ⑧⑨ 化学療法（分子標的薬）、免疫療法の基礎
 - ⑩⑪ 化学療法（分子標的薬）、免疫療法を受ける患者の症状マネジメント
 - ⑫⑬ 内分泌療法の基礎と症状マネジメント
 - ⑭⑮ がん薬物療法の臨床試験を受ける患者・家族への看護支援
4. 教育の進め方：講義、学生の発表と討議で進行する。
講義・討議：①⑭⑮、講義・発表・討議：②～⑬
【教科書・参考図書】：ガイダンス時に指示する。
【事前学習】講義：各回で取り上げる治療や症状についてまとめ、疑問点を整理しておく。
発表：発表資料を作成し、討議したい点について明らかにしておく。
【事後学習】講義内容、討議内容を振り返り、復習する。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

がん看護学特論Ⅳ

4 単位：60 時間（秋学期）

科目責任者 量 倫子（本学講師）

1. 教育目的：がんの診断から終末期まで、がんによってもたらされる苦痛を理解し、QOL の維持向上に向けて、キュアとケアを統合し包括的かつ実践的な援助方法を探求する。
2. 教育目標：1) がん患者・家族の苦痛を身体、心理、社会、霊的な側面より理解することができる。
2) 症状緩和をはかるためのアセスメントおよびそのアプローチ方法が説明できる。
3) 事例分析によりがん患者・家族の QOL 向上に必要な援助を説明することができる。
3. 教育内容：
 - ①② 緩和ケアの概念と現状
 - ③④ がん患者の抱える全人的苦痛と QOL
 - ⑤⑥ 緩和ケアを必要とするがん患者の家族の理解と看護支援
 - ⑦⑧ 緩和ケアを必要とする患者・家族の倫理的課題
 - ⑨⑩ 緩和ケアを促進するチームアプローチ
 - ⑪ 症状マネジメント；がん疼痛（1）
 - ⑫ 症状マネジメント；がん疼痛（2）
 - ⑬⑭ 症状マネジメント；呼吸困難・倦怠感
 - ⑮ 症状マネジメント；便秘
 - ⑯⑰ 症状マネジメント；せん妄・抑うつ・不安
 - ⑱ 苦痛緩和のための鎮静
 - ⑲ 症状マネジメントとしてのがんリハビリテーション
 - ⑳㉑㉒ スピリチュアルペインのアセスメントと看護支援
 - ㉓㉔ 緩和ケアを必要とする患者・家族の援助の実際（ホスピス、緩和ケア病棟）
 - ㉕㉖ 緩和ケアを必要とする患者・家族の援助の実際（在宅）
 - ㉗㉘ 緩和ケアを必要とする患者・家族の QOL 維持向上への援助（事例分析 1）
 - ㉙㉚ 緩和ケアを必要とする患者・家族の QOL 維持向上への援助（事例分析 2）
4. 教育の進め方：講義、学生の発表と討議で進行する。
講義・討議：①～㉖、発表・討議：㉗～㉚
【教科書・参考図書】ガイダンス時に指示する。
【事前学習】講義：各回で取り上げるテーマについてまとめ、疑問点を整理しておく。
発表：発表資料を作成し、討議したい点について明らかにしておく。
【事後学習】講義内容、討議内容を振り返り、復習する。
- 5.成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

がん看護学演習 I

2 単位：60 時間（春学期）

科目責任者 中島 恵美子（本学教授）

1. 教育目的：がん患者と家族の特徴を理解し、複雑な健康問題に対する包括的な支援ができるよう理論や概念を活用した看護援助方法について実践的に探求する。

2. 教育目標：1) がん患者・家族の特徴を理解できる。

2) がんの治療過程における患者・家族の健康問題が理解できる。

3) 複雑な健康問題を持つ患者・家族への看護援助の方法が説明できる。

3. 教育内容：

①② がん患者と家族の意思決定支援と倫理的問題の理解 (1)

治療選択における意思決定支援

③④ がん患者と家族の意思決定支援と倫理的問題の理解 (2) がんゲノム医療

⑤⑥ がん患者と家族の意思決定支援と倫理的問題の理解 (3) 遺伝カウンセリング

⑦ 手術療法を受けるがん患者のアセスメントと看護援助

⑧⑨ 放射線療法を受けるがん患者のアセスメントと看護援助

⑩⑪ 若年・壮年期がん患者のアセスメントと看護援助（事例検討）

⑫⑬ 高齢がん患者のアセスメントと看護援助（事例検討）

⑭⑮ 複雑な精神症状を抱えるがん患者とのコミュニケーション技術

⑯⑰ がん患者の栄養管理

⑱⑲ がんリハビリテーション

⑳㉑ 治療期の QOL を支える援助 (1) リンパ浮腫

㉒㉓ 治療期の QOL を支える援助 (2) アピアランスケア

㉔㉕㉖ 緩和ケア；癒しの技術

㉗㉘ がんサバイバーへの長期的支援：サポートグループ、セルフヘルプグループ

㉙㉚ 複雑な健康問題を持つ患者・家族に対するがん看護専門看護師としての援助

4. 教育の進め方：講義、演習、学生の発表と討議で進行する。

講義・演習：①～⑥⑧～㉘、発表・討議：⑦㉙㉚

【教科書・参考図書】：初回ガイダンスで指示する。

【事前学習】講義・演習：各回で取り上げるテーマについてまとめ、疑問点を整理しておく。

発表：発表資料を作成し、討議したい点について明らかにしておく。

【事後学習】講義・演習内容、討議内容を復習し、学びをレポートする。

5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

がん看護学演習Ⅱ

2 単位：60 時間（秋学期）

科目責任者 橋爪 可織（本学講師）

1. 教育目的：がん薬物療法を受ける患者に対するアセスメント方法、および有害事象に対する援助方法を修得し、治療中の QOL 向上に向けた看護支援について探求する。
2. 教育目標：1) がん薬物療法を受ける患者・家族への教育支援技術が理解できる。
2) 治療による有害事象に対する症状マネジメント方法を説明できる。
3) 患者のセルフケア能力の向上に向けた看護支援方法を説明できる。
3. 教育内容：
 - ①② がん薬物療法を受ける患者・家族の理解
 - ③④ がん薬物療法を受ける患者への教育支援技術演習(1)
 - ⑤⑥ がん薬物療法を受ける患者への教育支援技術演習(2)
 - ⑦⑧ がん薬物療法を受ける患者への教育支援技術演習(3)
 - ⑨⑩ 外来がん薬物療法を受ける患者へのチームアプローチ
 - ⑪⑫ 外来がん薬物療法（化学療法）を受ける患者・家族への看護支援 演習(1)
 - ⑬⑭ 外来がん薬物療法（化学療法）を受ける患者・家族への看護支援 演習(2)
 - ⑮⑯ 外来がん薬物療法（化学療法）を受ける患者・家族への看護支援（事例検討）
 - ⑰⑱ 外来がん薬物療法（免疫療法）を受ける患者・家族への看護支援 演習(1)
 - ⑲⑳ 外来がん薬物療法（免疫療法）を受ける患者・家族への看護支援 演習(2)
 - ㉑㉒ 外来がん薬物療法（免疫療法）を受ける患者・家族への看護支援（事例検討）
 - ㉓㉔ 外来がん薬物療法（内分泌療法）を受ける患者・家族への看護支援 演習(1)
 - ㉕㉖ 外来がん薬物療法（内分泌療法）を受ける患者・家族への看護支援 演習(2)
 - ㉗㉘ 外来がん薬物療法（内分泌療法）を受ける患者・家族への看護支援（事例検討）
 - ㉙㉚ がん薬物療法を受ける患者・家族の看護支援方法 まとめ
4. 教育の進め方：講義・演習、学生の発表と討議で進行する。病院においてベッドサイドティーチングを受け、講義で学んだことを実際の看護援助場面から理解を深め、さらに事例検討を行い具体的な看護援助の方略を検討する。
講義・討議：①②⑨⑩、演習：③～⑧⑪～⑭⑰～⑳㉓～㉖、
発表・討議：⑮⑯㉑㉒㉗～㉚
【教科書・参考図書】：ガイダンス時に提示する。
【事前学習】講義・演習：各回で取り上げるテーマについてまとめ、疑問点を整理しておく。
発表：発表資料を作成し、討議したい点について明らかにしておく。
【事後学習】講義・演習内容、討議内容を復習し、学びをレポートする。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(30%)、ケースレポート(30%)、課題レポート（40%）

がん看護学実習Ⅰ：役割実習

2 単位：90 時間

実施時期：秋学期

科目責任者	杏林大学保健学部看護学科	中島 恵美子
担当者	杏林大学医学部付属病院	原田 和沙

実習目的：高度実践看護師の役割である、実践、教育、相談、ケア調整、倫理調整、研究について、がん看護専門看護師の活動を通して学び、がん看護専門看護師に求められる役割を探究する。

実習目標：1. がん看護専門看護師に求められている役割と機能の概要について説明できる
2. がん看護専門看護師の役割を担うための自己の課題を明確にできる。

実習内容：1. がん看護専門看護師に同行し、がん看護専門看護師としての諸活動が行われている場への主体的な参加を通し、その役割と機能を理解する。
(専門看護師の役割である研究については、研究サポート部会にてがん看護専門看護師が活動しているため、その機会を利用し学習する)
2. がん看護専門看護師に必要な知識・技術・態度を、見学体験を通して学ぶ。
3. 実習終了後、がん看護専門看護師とカンファレンスを行い、1 および 2 の内容について検討し課題を見出す。

実習時期：M1 後期（実習に必要な専門科目の履修が終了した 1～2 月に実施）
10 日間臨地にて実施する

実習場所：杏林大学医学部付属病院

実習指導者：杏林大学医学部付属病院 がん看護専門看護師 原田 和沙

指導教員：中島 恵美子

評価：日々の臨地実習記録とカンファレンス内容（40%）実習終了後レポート(60%)
(実習終了後レポートは実習終了 2 週間を目途に提出)

がん看護学実習Ⅱ：上級看護実践実習（がん薬物療法看護分野）

4 単位：180 時間

科目責任者	杏林大学保健学部看護学科	中島 恵美子
担当者	杏林大学保健学部看護学科	橋爪 可織
	杏林大学医学部附属病院	原田 和沙
	杏林大学医学部附属病院	新田 理恵
	杏林大学医学部腫瘍内科学教室	長島 文夫

実習目的：がん薬物療法（化学療法、免疫療法、内分泌療法）を受ける患者の診断、治療にともなう臨床判断、身体管理について、がん看護専門看護師および医師（指導担当医師）の指導を受け、高度な看護実践能力を修得する。

- 実習目標：1. がん薬物療法（化学療法、免疫療法、内分泌療法）において、がん看護専門看護師に求められる、直接ケア、相談、ケア調整、教育、研究の役割について説明できる。
2. がん薬物療法を受ける患者の QOL を高める看護を実践できる。
3. 医療スタッフのニーズ調査、相談をもとに問題解決やケアの質的向上に向けたケア調整、教育を実施できる。
4. がん薬物療法におけるがん看護専門看護師の役割を担うための自己の課題を明確にできる。

- 実習内容：1. がん薬物療法（化学療法、免疫療法、内分泌療法）を受ける患者を受け持ち、看護実践を主体的に行い、がん看護専門看護師の視点から考察する。
2. がん薬物療法（化学療法、免疫療法、内分泌療法）を受ける患者の診察に参加、治療実施の判断、その後、外来治療センターで実施される治療処置を体験、患者への教育指導と評価を実践し一連のプロセスで学ぶ。
3. がん薬物療法（化学療法、免疫療法、内分泌療法）を受ける患者の多職種連携カンファレンス、カンサーボードへの参加などをおし、患者の治療効果をたかめる看護実践を考察する。
4. がん薬物療法（化学療法、免疫療法、内分泌療法）に関する病棟スタッフの教育ニーズをアセスメントし、がん看護に関する教育案を作成、実施・評価をする。
5. 実習終了後にがん看護専門看護師とカンファレンスを行い、1,2,3,4 の実習内容について検討し自己の課題を見出す。

実習時期：M2 前期（実習に必要な専門科目の履修が終了した 5～6 月に実施）
病棟実習 10 日間、外来治療センター・外来診療室実習 10 日間。

実習場所：杏林大学医学部附属病院（化学療法病棟、外来治療センター、外科診療室）

実習指導者：がん看護専門看護師 原田 和沙、がん化学療法看護認定看護師 新田 理恵
腫瘍内科医師 教授 長島 文夫

指導教員：中島 恵美子 橋爪 可織

評 価：日々の臨地実習記録とカンファレンス内容（50%）実習終了後レポート(50%)
（実習終了後レポートは実習終了 2 週間を目途に提出）

がん看護学実習Ⅲ：上級看護実践実習（緩和ケア分野）

4 単位：180 時間

科目責任者	杏林大学保健学部看護学科	中島 恵美子
担当者	杏林大学保健学部看護学科	量 倫子
	杏林大学医学部付属病院	原田 和沙
	杏林大学医学部付属病院	正保 智恵美
	杏林大学医学部付属病院	木下 ゆみ
	杏林大学医学部麻酔科学教室	鎮西 美栄子
医療法人社団エトワール会たんぽぽクリニック		井上 俊之
多摩たんぽぽ訪問看護ステーション		千葉 信子
多摩たんぽぽ訪問看護ステーション		佐藤 裕介
聖ヨハネ会 桜町病院ホスピス科		三枝 好幸
聖ヨハネ会 桜町病院ホスピス病棟		太田 るみ子

実習目的：様々な困難や複雑な状況を抱え、緩和ケアを必要とするがん患者・家族に対し、がん看護専門看護師および医師（指導担当医師）の指導を受け、高度な看護実践能力を修得する。また多職種と連携し、がん医療における様々な療養の場に必要な地域連携の実際を学ぶ。

- 実習目標：
1. 緩和ケア（病院、在宅、ホスピス）においてがん看護専門看護師に求められる、直接ケア、相談、ケア調整、倫理調整の役割について説明できる。
 2. がん患者の症状緩和における臨床判断のプロセスと身体管理を体験し、苦痛緩和のための看護実践能力を修得する。
 3. 様々な困難や複雑な状況を抱える患者・家族に対する倫理調整を考察できる。
 4. 地域連携について、緩和ケアが必要ながん患者の病院から在宅療養への退院調整から移行期支援における看護支援と多職種連携について考察できる。
 5. 地域包括支援の視点から在宅における症状緩和と多職種連携について、訪問診療・訪問看護実習を通して修得する。
 6. ホスピスにおける症状緩和および End of Life Care やグリーフケアのあり方を考察できる。

- 実習内容：
1. 症状緩和が必要な患者を受け持ち、看護実践を主体的に行い、がん看護専門看護師の視点から考察する。
 2. 緩和ケアチームの活動に参加し、複雑で困難な症状を有する患者に関する相談を受け、円滑なケア提供のための調整について検討する。
 3. 緩和ケア外来および訪問診療において、症状緩和をはかる患者の診察および治療処置に参加し、医師の指導のもとに可能な治療技術を体験し、看護実践に活用することができるように考察する。

4. 病院・在宅・ホスピスいずれかの実習において、様々な困難や複雑な状況を抱える患者・家族の倫理問題を明らかにし、問題解決や対処の方法について検討する。
5. 地域連携について、病院から在宅療養へ移行のための退院調整カンファレンスに参加し、退院調整看護師指導のもと可能な部分については実践し、在宅療養移行に向けた看護支援と多職種連携の在り方について考察する。
6. 地域包括支援の視点において、病院から在宅療養に移行したがん患者の訪問看護および訪問診療に同行し、指導担当医師の指導のもと実践可能な医療処置について体験し看護実践に活用できるようにする。また、訪問看護により在宅におけるがん患者への関わりと病院から在宅療養移行期支援に必要な視点について考察する。
7. ホスピスにおける症状緩和について、緩和ケア外来および入院患者に対し、指導者と共に実践、看護ケアの振り返りを行う。また、End of Life Care やグリーフケアのあり方について学び、可能な部分については実践しホスピスケアについて考察する。
8. ホスピスにおける多職種（チャプレン、音楽療法士、ボランティアなどを含む）の活動の実際を見学、およびボランティア活動を体験し、それぞれの関わりから、ホスピスにおける多職種連携を学び、看護実践に活用できるように考察する。

実習時期：M2 前期・後期（必要な専門科目の履修が終了した 7～10 月に実施）
緩和ケアチーム・緩和ケア外来実習 10 日間（退院支援実習を含む）
在宅実習 7 日間、ホスピス実習 7 日間

実習場所：杏林大学医学部附属病院（緩和ケア外来、緩和ケアチーム、患者支援センター）
聖ヨハネ会 桜町病院 ホスピス科外来・病棟
医療法人社団エトワール会 たんぽぽクリニック
営利法人 多摩たんぽぽ訪問看護ステーション

実習指導者：[緩和ケアチーム・緩和ケア外来 実習指導者]

杏林大学医学部附属病院 がん看護専門看護師 原田 和沙

杏林大学医学部附属病院 緩和ケア専従医師 鎮西 美栄子

杏林大学医学部附属病院 緩和ケア専従看護師

がん性疼痛看護認定看護師 正保 智恵美

杏林大学医学部附属病院 患者支援センター退院調整看護師 木下 ゆみ

[ホスピス病棟・ホスピス外来 実習指導者]

杏林大学医学部附属病院 がん看護専門看護師 原田 和沙

聖ヨハネ会 桜町病院ホスピス科部長 医師 三枝 好幸

聖ヨハネ会 桜町病院ホスピス病棟師長 太田 るみ子

[在宅実習 実習指導者]

杏林大学医学部付属病院 がん看護専門看護師 原田 和沙

たんぽぽクリニック 院長 井上 俊之

多摩たんぽぽ訪問看護ステーション 統括管理者

精神訪問看護認定看護師 千葉 信子

多摩たんぽぽ訪問看護ステーション 所長 佐藤 裕介

指導教員：中島 恵美子 量 倫子

評価：日々の臨地実習記録とカンファレンス内容（50%）実習終了後レポート(50%)
(実習終了後レポートは実習終了 2 週間を目途に提出)

専攻教育課程照合表

専門看護分野：精神看護

	科目	大学院該当科目	その科目の内容	履修 単位	認定 単位
専攻分野 共通科目	1. 歴史・法制度に関する科目	精神看護学特論Ⅰ	精神保健医療福祉に関する歴史と法制度や体制、日本における動向および当事者の活動の変遷を学び、精神保健看護の立場から、精神保健医療福祉の体制が抱えている課題や今後のあり方について理解を深める。	2	2
	2. 精神看護の理論に関する科目	精神看護学特論Ⅳ	精神保健上の問題をもつ対象の回復(リカバリー)を支援するために、必要な理論と技法を習得する。また、精神看護の専門看護師として必要な役割や機能について学ぶ。	2	2
	3. 精神看護のアセスメント・支援モデルに関する科目	精神看護学演習Ⅰ	看護に必要な援助モデルを学び、対象のアセスメントおよび支援する実践能力を、演習を通して養う。また精神看護の専門看護師として必要な機能と役割である、実践、コンサルテーション、倫理調整、コーディネーション、教育、研究について学び、必要なアセスメントと援助計画立案に向けて、事例検討を通して実践能力を養う。	2	2
	4. 精神の健康状態の評価に関する科目	精神看護学特論Ⅲ	精神の健康状態を評価する視点と評価の手法、日常生活行動と精神の健康状態との関連を評価する手法を学び、対象のアセスメントや具体的な看護援助、精神科治療技法による介入について理解を深める。	2	2
	5. 心理・社会的療法に関する科目	精神看護学演習Ⅱ	精神保健上の問題をもつ対象の回復（リカバリー）を支援するため、対象・家族・集団に対し必要な精神科治療技法および、心理・社会的療法について学ぶ。また、精神看護の専門看護師としての治療的なかわりを理解し、さらに自己のかかわりについて相互作用の視点から理解を深める。	2	2
	6. 精神科薬物・身体療法に関する科目	精神看護学特論Ⅱ	精神疾患の病態治療論および精神科薬物療法、身体療法、心理測定法などの治療的な介入を行うための理論的基盤を養う。また、精神・身体状態のアセスメントができるために、精神保健上の問題のメカニズムを心身医学の捉え方をふまえ、理解し診断・治療について学ぶ。それらを基に、精神看護の視点から対象のアセスメントを深め、薬物療法の評価や服薬支援に関する看護援助について理解を深める。		
専攻分野 専門科目	1. 救急・急性期精神看護				
	2. 地域精神看護				
	3. リエゾン精神看護	精神看護学特論Ⅴ	心身医学・看護の立場をふまえた上で、リエゾン精神看護の役割と機能、その理論的枠組み、対象の特徴、実際の活動などについて学ぶ。		

実習科目	実習	精神看護学実習Ⅰ	精神看護学実習Ⅰ (CNS 役割実習 2 単位) 精神専門看護師の役割である、実践、教育、相談、調整、コンサルテーション、研究について、実際に臨床の場でどのように実践されているかを学ぶ。	2	2
		精神看護学実習Ⅱ	精神看護学実習Ⅱ (精神科診断・治療実習 2 単位) 精神看護専門看護師として精神科診断や治療に関する判断能力および看護援助へのアセスメントを、実際に臨床の場でどのように実践されているかを学ぶ。	2	2
		精神看護学実習Ⅲ	精神看護学実習Ⅲ (上級看護実践実習 6 単位) 精神看護領域とリエゾン精神看護分野について、医療施設における直接ケアおよび間接ケアを行い、精神専門看護師に必要とされる高度な看護実践能力を習得する。上記については、それぞれ実習終了時に単位を認定する。 上級実践看護実習①精神科看護領域での直接ケア (必修：2 単位) 上級実践看護実習② リエゾン精神看護領域での直接ケア (必修：2 単位) 上級実践看護実習③ 精神科看護領域または、リエゾン看護領域のいずれかでの間接ケア (選択必修：2 単位)	6	6
					認定合計単位 24 単位

精神看護学特論Ⅰ

2単位（春学期）

科目責任者 浅沼奈美（本学精神看護学 教授）

1. 教育目的

精神保健医療福祉に関する歴史と法制度や体制、国際的な動向、日本における動向および当事者の活動の変遷を学び、精神保健看護の立場から、精神保健医療福祉の体制が抱えている課題や今後のあり方について理解を深める。

2. 教育目標

- 1) 日本の精神保健医療福祉に関する法制度や体制と歴史的な変遷について理解する。
- 2) 精神障害者が社会復帰するための制度と社会資源の活用方法を習得する。
- 3) 精神保健医療福祉の体制の現況から精神障害者の権利擁護に向け、今後の看護職の役割について理解する。

3. 教育内容

- ① 精神保健医療福祉の歴史的変遷（世界における古代・中世・近代精神医療）
- ② 精神障害者の人権擁護とスティグマ
- ③ わが国における精神保健医療福祉の法制度の変遷Ⅰ
- ④ わが国における精神保健医療福祉の法制度の変遷Ⅱ
- ⑤ 精神保健医療福祉に関する国際動向
- ⑥ 精神障害者の職業リハビリテーションと法制度
- ⑦ 精神障害者の地域生活支援制度Ⅰ（地域移行支援）
- ⑧ 精神障害者の地域生活支援制度Ⅱ（ケアマネージメントと福祉施設・司法精神保健福祉）
- ⑨ 精神障害者の地域生活支援制度Ⅲ（精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム）
- ⑩ 精神障害者の地域生活支援制度Ⅳ（精神科訪問看護）
- ⑪ 精神障害者の地域生活支援制度Ⅴ（ひきこもりの地域支援）
- ⑫ 学校精神保健に関する法制度
- ⑬ 産業精神保健に関する法制度
- ⑭ セルフヘルプ・グループとピアカウンセリング・WRAP（元気回復行動プラン）・当事者研究
- ⑮ 当事者活動と専門職の支援

4. 教育の進め方

講義、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。

講義・討議：⑥⑦⑧⑩⑪⑫、プレゼンテーション・討議：①②③④⑤⑨⑬⑭⑮ 見学：⑨⑪⑮

【教科書・参考書】別紙参照

【事前学習】講義：講義の各回の法制度や体制などの内容についてまとめ、疑問点を整理しておく。

プレゼンテーション：プレゼンテーション資料を作成し、討議したい点を明らかにしておく。

【事後学習】講義内容、討議内容を振り返り、復習する。

5. 成績評価方法

プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

精神看護学特論Ⅱ

2単位（春学期）

科目責任者 浅沼奈美（本学精神看護学 教授）

1. 教育目的

精神疾患の病態治療論および精神科薬物療法、身体療法、心理測定法などの治療的な介入を行うための理論的基盤を養う。また、精神・身体状態のアセスメントができるために、精神保健上の問題のメカニズムを心身医学の捉え方をふまえ、理解し診断・治療について学ぶ。それらを基に、精神看護の視点から対象のアセスメントを深め、薬物療法の評価や服薬支援に関する看護援助について理解を深める。

2. 教育目標

- 1) 各精神疾患の病態治療論を基盤にした、薬物療法や様々な治療方法について学び、看護ケアを行うためのアセスメント方法を理解できる。
- 2) 精神科看護やリエゾン精神看護における薬物療法の臨床効果や有害作用の評価ができる。
- 3) 精神科薬物療法および身体療法の共同意思決定による看護援助が理解できる。

3. 教育内容

- ① 精神科に用いる治療と検査Ⅰ 精神科薬物療法におけるアセスメント
- ② 精神科に用いる治療と検査Ⅱ 精神科薬物療法と共同意思決定（SDM）
- ③ 精神科に用いる治療と検査Ⅲ SPECT・m-ECT・EEG・rTMS・D-dimer・心理検査など
- ④ 精神疾患の診断と薬物療法（不安障害・強迫性障害）
- ⑤ 精神疾患の診断と薬物療法（心的外傷性ストレス障害・適応障害）
- ⑥ 精神疾患の診断と薬物療法（パーソナリティ障害・摂食障害）
- ⑦ 精神疾患の診断と薬物療法（発達障害・物質関連障害）
- ⑧ 精神疾患の診断と薬物療法（統合失調症）
- ⑨ 精神疾患の診断と薬物療法（気分障害）
- ⑩ 精神疾患の診断と薬物療法（症状性精神障害：せん妄・心身症）
- ⑪ 精神疾患の診断と薬物療法（老年期精神障害：認知症含む・睡眠障害）
- ⑫ 精神科薬物療法と看護アセスメント
- ⑬ リエゾン精神看護における薬物療法の評価
- ⑭ 精神科薬物療法における服薬支援
- ⑮ 服薬心理教育

4. 教育の進め方

講義、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。

講義・討議：①②⑦⑨⑩⑪⑫⑬⑭、プレゼンテーション・討議：③④⑤⑥⑧⑮

【教科書・参考書】別紙参照

【事前学習】講義：講義の各回の薬物・身体療法に関する内容についてまとめ、疑問点を整理しておく。

プレゼンテーション：プレゼンテーション資料を作成し、討議したい点を明らかにしておく。

【事後学習】講義内容、討議内容を振り返り、復習する。

5. 成績評価方法

プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

精神看護学特論Ⅲ

2 単位（春学期）

科目責任者 浅沼奈美（本学精神看護学 教授）

1. 教育目的

精神看護の専門看護師として、精神の健康状態を評価する視点と評価の手法、日常生活行動と精神の健康状態との関連を評価する手法を学び、対象のアセスメントや具体的な看護援助、精神科治療技法による介入について理解を深める。

2. 教育目標

- 1) 精神科診断基準および精神症状の評価法、心理的・社会的・職業的な機能の全体評価方法などを学び治療的な介入を行うための理論的基盤を基に、精神看護の視点から対象をアセスメントし、援助計画を立案することができる。
- 2) 受理面接の演習にて、精神症状の評価を活用することができる。
- 3) 精神科外来で受理面接した事例の問診から、診断・処方についてのアセスメントを理解できる。

3. 教育内容

- ① 精神の健康状態の評価Ⅰ（DSM および ICD による査定）
- ② 精神の健康状態の評価Ⅱ（DSM および ICD による査定）
- ③ 精神看護における精神の健康状態の評価Ⅰ（MSE・MHA を用いた査定）
- ④ 精神看護における精神の健康状態の評価Ⅱ（MSE・MHA を用いた査定）
- ⑤ 精神看護における精神の健康状態の評価Ⅲ（MSE・MHA を用いた査定）
- ⑥ 精神看護における心理・社会的健康状態の評価（GAF を用いた査定）
- ⑦⑧⑨ 精神看護技術による看護援助Ⅰ 外来での問診および診断・処方に関するアセスメント
- ⑩⑪⑫ 精神看護技術による看護援助Ⅱ 外来での問診および診断・処方に関するアセスメント
- ⑬⑭⑮ 精神看護技術による看護援助Ⅲ 外来での問診および診断・処方に関するアセスメント

4. 教育の進め方

講義、学生のプレゼンテーションと討議、外来演習で進行する。

講義・討議：①②③④⑤⑨⑫⑮、プレゼンテーション・討議：①②⑥ 外来演習：⑦⑧⑩⑪⑬⑭

【教科書・参考書】別紙参照

【事前学習】講義：講義の各回の健康状態の評価についてまとめ、疑問点を整理しておく。

プレゼンテーション：プレゼンテーション資料を作成し、討議したい点を明らかにしておく。

【事後学習】講義・討議内容、演習内容を振り返り、復習する。

5. 成績評価方法

プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

精神看護学特論Ⅳ

2単位（秋学期）

科目責任者 佐藤美保（本学精神看護学 准教授）

1. 教育目的

精神看護の専門看護師として、精神保健上の問題をもつ対象の回復(リカバリー)を支援するために、必要な理論と技法を習得する。また、精神看護の専門看護師として必要な役割や機能について学ぶ。

2. 教育目標

- 1) 精神保健上の問題をもつ対象に、適切な看護援助を提供するために必要な理論を理解する。
- 2) 精神看護の専門看護師として必要な役割と機能について理解する。

3. 教育内容

- ① 対象理解と生活の評価に必要な基礎的理論Ⅰ (Bio - Psycho - Social モデル・セルフケアモデル)
- ② 対象理解と生活の評価に必要な基礎的理論Ⅱ 精神力動論①（自我の構造と機能・不安と防衛機制）
- ③ 対象理解と生活の評価に必要な基礎的理論Ⅲ 精神力動論②（フロイトの考え方の成り立ち～発達段階）
- ④ 対象理解と生活の評価に必要な基礎的理論Ⅳ 心理・社会的発達に関する理論
- ⑤ 対象関係論（クライン）・対人関係論（ペプロウ）
- ⑥ ストレス・コーピング論（セリエ、ラザロス）、脆弱性－ストレス－保護因子モデル（リバーマン）、危機理論
- ⑦ 家族システム論と家族看護（多問題家族含む）
- ⑧ セルフケア論（オレム・アンダーウッド理論）
- ⑨ セルフケア論（オレム・アンダーウッド理論）と自立に向けた退院支援
- ⑩ 回復（リカバリー）理論
- ⑪ レジリエンス・エンパワメント
- ⑫ ストレングスモデル
- ⑬ トラウマインフォームドケア・ハームリダクション
- ⑭ 精神科領域におけるチーム医療の展開－多職種とのチームアプローチ・共同意思決定 (SDM)・共同創造
- ⑮ 精神看護倫理

4. 教育の進め方

講義、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。

講義・討議：⑧⑩⑫⑬⑭⑮、プレゼンテーション・討議：①②③④⑤⑥⑦⑨⑪

【教科書・参考書】別紙参照

【事前学習】講義：講義の各回の理論と技法に関する内容についてまとめ、疑問点を整理しておく。

プレゼンテーション：プレゼンテーション資料を作成し、討議したい点を明らかにしておく。

【事後学習】講義内容、討議内容を振り返り、復習する。

5. 成績評価方法

プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

精神看護学特論Ⅴ

2単位（秋学期）

科目責任者 佐藤美保（本学精神看護学 准教授）

1. 教育目的

心身医学・看護の立場をふまえた上で、リエゾン精神看護の役割と機能、その理論的枠組み、対象の特徴、実際の活動などについて学び、より実践的な探求を行う。

2. 教育目標

リエゾン精神看護の役割と機能、その理論的枠組み、対象の特徴、実際の活動などについて学び、実践に生かすことが出来る。

3. 教育内容

- ① リエゾン精神看護Ⅰ リエゾン精神看護の位置づけと理論的枠組み
- ② リエゾン精神看護Ⅱ 対象の特徴と実際の活動（不安・怒りが強い患者）
- ③ リエゾン精神看護Ⅲ 対象の特徴と実際の活動（拒否・拒絶が強い患者、不眠を有する患者）
- ④ トラウマケアー心的外傷Ⅰ
- ⑤ トラウマケアー心的外傷Ⅱ
- ⑥ サイコオンコロジーⅠ 精神腫瘍学における看護とアセスメント
- ⑦ サイコオンコロジーⅡ 対象の特徴と実際の活動（疼痛を抱えるがん患者、AYA世代のがん患者、がん患者の就労）
- ⑧ サイコオンコロジーⅢ 腫瘍精神医学の現状と課題
- ⑨ サイコオンコロジーⅣ 腫瘍精神医学における精神看護の現状と課題
- ⑩ せん妄の症状マネジメント
- ⑪ うつ病の症状マネジメント
- ⑫ 救命救急センターにおけるコンサルテーション
- ⑬ CNS活動の実際Ⅰ 総合病院におけるCNSの役割の現状と課題（リエゾン精神看護と組織）
- ⑭ CNS活動の実際Ⅱ 総合病院におけるCNSの役割の現状と課題（リエゾン精神看護とチーム）
- ⑮ CNS活動の実際Ⅲ 総合病院におけるCNSの役割の現状と課題（リエゾン精神看護と教育および研究）

4. 教育の進め方

講義、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。

講義・討議：①②③⑤⑥⑫⑬⑭⑮、プレゼンテーション・討議：①④⑥⑦⑩⑪ グループワーク：⑧⑨

【教科書・参考書】別紙参照

【事前学習】講義：講義の各回の理論と技法に関する内容についてまとめ、疑問点を整理しておく。

プレゼンテーション：プレゼンテーション資料を作成し、討議したい点を明らかにしておく。

【事後学習】講義内容、討議内容を振り返り、復習する。

5. 成績評価方法

プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

精神看護学演習Ⅰ

2単位（秋学期）

科目責任者 佐藤美保（本学精神看護学 准教授）

1. 教育目的

精神看護の専門看護師として看護に必要な援助モデルを学び、対象のアセスメントおよび支援する実践能力を、演習を通して養う。また精神看護の専門看護師として必要な機能と役割である、実践、コンサルテーション、倫理調整、コーディネーション、教育、研究について学び、必要なアセスメントと援助計画立案に向けて、事例検討を通して実践能力を養う。

2. 教育目標

- 1) 精神看護のアセスメントに必要なモデルを学び、病態に合わせた援助計画を立案できる。
- 2) 自殺および災害時の対応やリスクアセスメントを理解できる。
- 3) 子どもと女性に関する精神保健・医療・福祉に関するアセスメントと支援を理解できる。
- 4) 精神看護の専門看護師として必要な機能と役割について学び、アセスメントから援助計画が立案できる。

3. 教育内容

- ①②精神看護における Bio - Psycho - Social モデルを用いたアセスメントと支援
- ③④精神看護におけるセルフケアモデルを用いたアセスメントと支援
- ⑤⑥精神看護におけるストレングスモデルを用いたアセスメントと支援
- ⑦⑧精神疾患患者の急性期におけるアセスメントと看護援助
- ⑨⑩精神疾患患者の慢性期におけるアセスメントと看護援助
- ⑪⑫依存症精神障害患者のアセスメントと看護援助
- ⑬⑭処遇困難患者のアセスメントと看護援助
- ⑮⑯自殺リスクのある患者のアセスメントと看護援助
- ⑰⑱災害時の精神保健医療の安全管理（災害時の初期対応・治療継続・災害派遣精神医療チーム（DPAT）との連携・協力に関するアセスメントと援助計画）
- ⑲⑳精神の健康の保持増進及び病気の予防におけるアセスメントと看護援助（子どもと女性のメンタルヘルス）
- ㉑㉒CNS の機能Ⅰ コンサルテーションにおけるアセスメントと援助計画
- ㉓㉔CNS の機能Ⅱ 倫理調整における患者・家族関係および臨床倫理に関するアセスメントと援助計画
- ㉕㉖CNS の機能Ⅲ コーディネーション 他職種とのコーディネーションに関する援助計画
- ㉗㉘CNS の機能Ⅳ 教育・研究に関する援助計画
- ㉙㉚CNS の機能Ⅴ 臨床スタッフのメンタルヘルスに関する援助計画

4. 教育の進め方

講義、学生のプレゼンテーションと討議、演習で進行する。

講義・討議：①③⑤⑦⑨⑪⑬⑮⑰⑲⑳㉑㉓㉕㉗㉙、演習：グループワーク②④⑥⑧⑩⑫⑭⑯⑱㉒㉔㉖㉘㉚

【教科書・参考書】別紙参照

【事前学習】講義：講義の各回の看護アセスメントに関する内容についてまとめ、疑問点を整理しておく。

プレゼンテーション：プレゼンテーション資料を作成し、討議したい点を明らかにしておく。

【事後学習】講義・討議内容、演習内容を振り返り、復習する。

5. 成績評価方法 プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

精神看護学演習Ⅱ

2単位（春学期）

科目責任者 佐藤美保（本学精神看護学 准教授）

1. 教育目的

精神看護の専門看護師として精神保健上の問題をもつ対象の回復（リカバリー）を支援するため、対象・家族・集団に対し必要な精神科治療技法および、心理・社会的療法について学ぶ。また、精神看護の専門看護師としての治療的なかかわりを理解し、さらに自己のかかわりについて相互作用の視点から理解を深める。

2. 教育目標

- 1) 精神保健上の問題をもつ対象に適切な看護援助を提供するために精神療法的治療技法について理解する。
- 2) 精神看護の専門家として求められる治療的なかかわりについて理解する。
- 3) 自己理解を深めるためにプロセスレコードやロールプレイを用いて、自己の看護場面の相互作用を分析し理解する。

3. 教育内容

- ①②③精神看護技術による看護Ⅰ 面接技法 受理面接（外来での問診および診断・処方と看護援助計画）
- ④⑤⑥精神看護技術による看護Ⅱ 精神療法Ⅰ（精神力動論、支持的精神療法、芸術療法）
- ⑦⑧⑨精神看護技術による看護Ⅲ 精神療法Ⅱ（認知行動療法）
- ⑩⑪⑫精神看護技術による看護Ⅳ 集団精神療法
- ⑬⑭⑮精神看護技術による看護Ⅴ SST（social skill training）の理論と技術
- ⑯⑰⑱精神看護技術による看護Ⅵ 心理教育・家族心理教育の理論と技術
- ⑲⑳㉑精神看護技術による看護Ⅶ プロセスレコード
- ㉒㉓㉔精神看護技術による看護Ⅷ ロールプレイ・サイコドラマ
- ㉕㉖㉗精神看護技術による看護Ⅸ 事例検討とグループスーパービジョン
- ㉘㉙㉚精神看護技術による看護Ⅹ リラクセーションの理論と技術

4. 教育の進め方

講義、学生のプレゼンテーションと討議、演習で進行する。

講義・討議：⑥⑦⑨⑩⑬⑭⑱⑲⑳㉑、プレゼンテーション・討議：④⑤⑬

演習：⑥⑧⑨⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚

外来演習：①②③

【教科書・参考書】別紙参照

【事前学習】講義：講義の各回の理論と技法に関する内容についてまとめ、疑問点を整理しておく。

プレゼンテーション：プレゼンテーション資料を作成し、討議したい点を明らかにしておく。

【事後学習】講義内容、討議内容を振り返り、復習する。

5. 成績評価方法

プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

精神看護学実習 10 単位（春・秋学期）

科目責任者 浅沼 奈美（精神看護学 教授）

1. 教育目的：精神看護領域において、精神看護の専門性および特殊性をふまえ、高度のアセスメント能力と、専門看護師に必要とされる卓越した実践、教育、相談、調整、研究が自律的に実践できる能力を習得する。

2. 教育目標

- 1) 精神看護専門看護師の役割を理解し、卓越した実践、教育、相談、調整、研究ができる。
- 2) 精神疾患患者および精神保健上の問題を抱えている対象およびその家族、その看護に携わっているスタッフに対し精神看護の専門性、特殊性をふまえたアセスメントと看護実践ができる。
- 3) 精神疾患患者および精神保健上の問題を抱えている対象およびその家族が抱える倫理的問題に対し、対象者の尊厳を守りながら問題解決をはかることができる。

3. 実習目標

[実習目標と内容]

実習目標	実習内容
1. 実践 精神疾患患者および精神保健上の問題を抱えている対象およびその家族に対する卓越した看護実践を行う	複雑で困難な問題を有する対象に対し、個別に応じたケア提供方略、アセスメント、ケアプランを作成し、質の高い卓越した看護の実践を行う。
2. 教育 看護職者に対するケアの質の向上のための教育機能を果たす	他の看護職者への教育を講義・演習で培った知識や技術を基に、臨床指導者と共に実践する。
3. 相談 看護職者とのケア提供者に対するコンサルテーションを実践する	複雑で困難な実践状況において、看護職者や他のケア提供者に対し、精神看護の専門的立場での相談や意見の提供を臨床指導者と共に実践し、問題への対処、解決を図る。
4. 調整 円滑なケア提供のためのコーディネーションを実践する	複雑な問題を有する事例に対し、継続したケア提供を円滑に実施するために、他職種との連携、調整を図る。
5. 研究 専門的知識・技術の向上や開発を図るため研究活動に取り組む	精神看護分野において、研究的取り組みを必要とする課題を見出し、問題解決やケアの質的向上に向けた研究活動を実践する。
6. 倫理 倫理的な葛藤や問題が生じた場合、解決への取り組みを図る	精神看護分野における倫理的課題に対し、患者・家族、ケア提供者間に立ち、問題解決や対処のための様々な検討を行い調整を図る。

精神看護学実習Ⅰ（2 単位）：[CNS 役割実習]

精神看護専門看護師の役割である、実践、教育、相談、調整、コンサルテーション、研究について、実際に臨床の場でどのように実践されているかを、精神看護専門看護師のスーパービジョンを受けながら学ぶ。

精神看護学実習Ⅱ（2 単位）：[医療施設における精神科診断・治療実習]

精神看護専門看護師として精神科診断や治療に関する判断能力および看護援助へのアセスメントを、実際に臨床の場でどのように実践されているかを、精神科医や精神看護専門看護師のスーパービジョンを受けながら学ぶ。

精神看護学実習Ⅲ（6 単位）：[上級看護実践実習]

医療施設における直接ケアおよび間接ケアを精神専門看護のスーパービジョンを受けながら学び、精神看護専門看護師に必要とされる高度な看護実践能力を習得する。

4. 教育の進め方

- 1) 実習は精神看護学実習Ⅰ [CNS 役割実習]、精神看護学実習Ⅱ [医療施設における精神科診断・治療実習]、精神看護学実習Ⅲ：[上級看護実践実習]①必修：精神科看護領域 2 単位、②必修：リエゾン精神看護領域 2 単位、

- ③選択必修：精神科看護領域あるいは、リエゾン精神看護領域のいずれかの選択2単位とし、実施する。
- 2) 実習場において担当教員の指導と精神看護専門看護師を始めとする各施設の実習指導担当者の指導を受けながら実習を進める。
- 3) 専門看護師の役割（実践、教育、相談、調整、コンサルテーション）について実習した内容を記録し、実習目標達成のための実習計画を作成し、修正しながら実行する。
- 4) 専門看護師の役割（実践、教育、相談、調整、コンサルテーション）について実習した内容を事例に基づきレポートする。
5. 実習施設：杏林大学医学部附属病院、東京武蔵野病院、聖路加国際病院、井之頭病院にて実施する。
6. 成績評価方法：最終提出レポート(100%)にて評価する。

専攻教育課程照合表

専門看護分野：クリティカルケア看護

	科目	大学院該当科目	その科目の内容	履修 単位	申請 単位
専攻分野 共通科目	1. 危機とストレスに関する科目	クリティカルケア看護学特論Ⅰ	クリティカルな状況にある患者と家族を理解するための代表的な理論を学び、衝撃的な体験や持続するストレスからの立ち直りを促す援助方法を探究する。	2	2
	2. 重症患者の代謝病態生理学に関する科目	病態治療論	急性・重症患者の身体機能を総合的にアセスメントし、適切な看護援助を実践するための病態生理および治療について学ぶ。	2	2
	3. クリティカルケア治療管理に関する科目	クリティカルケア看護学演習Ⅰ	急性・重症患者の複雑な病態や身体機能に対して用いられる治療・処置などの全身管理について理解を深め、適切な援助を探究する。	2	2
専攻分野 専門科目	1. クリティカルケア看護援助に関する科目Ⅰ	クリティカルケア看護学特論Ⅱ	クリティカルな状況にある患者と家族を心身統一体としてとらえ、回復を促すためのケアとケアが融合した看護介入の方法を探究する。	2	2
	2. クリティカルケア看護援助に関する科目Ⅱ	クリティカルケア看護学特論Ⅲ	クリティカルな状況にある患者とその家族に生じやすい倫理問題を理解し、看護倫理や意思決定に関する諸理論をもとに問題解決のための援助方法について探究する。	2	2
	3. クリティカルケア看護援助に関する科目Ⅲ	クリティカルケア看護学演習Ⅱ	クリティカルな状況にある患者と家族の身体的・心理的・社会的苦痛を緩和・軽減するための看護ケアについて学ぶ。	2	2
	4. クリティカルケア看護援助に関する科目Ⅳ	クリティカルケア看護学演習Ⅲ	救命救急看護、集中治療看護分野の病態生理・治療・処置などの知識を深め、その分野における高度な看護実践について探究する。	2	2
実習科目	クリティカルケア看護実習	クリティカルケア看護学実習Ⅰ	急性・重症患者看護専門看護師に必要とされる教育、相談、調整、倫理調整が自立して実践できる能力を養う。	2	2
		クリティカルケア看護学実習Ⅱ	集中治療領域において、診断・治療に伴う臨床判断、身体管理について学び、急性・重症患者看護専門看護師に必要とされる高度な看護実践能力を習得する。	3	3
		クリティカルケア看護学実習Ⅲ	救急領域において、診断・治療に伴う臨床判断、身体管理について学び、急性・重症患者看護専門看護師に必要とされる高度な看護実践能力を習得する。	3	3
		クリティカルケア看護学実習Ⅳ	ポストクリティカル期の患者のケア調整やセルフケアに向けた教育的関わりを学び、専門看護師に求められる高度な看護実践能力を習得する。	2	2
				合計単位 24 単位	

クリティカルケア看護学特論 I

2 単位：30 時間（春学期）

科目責任者 加賀谷 聡子（本学教授）

1. 教育目的

クリティカルな状況にある患者とその家族の体験や苦悩を理解するための代表的な理論を学び、衝撃的な体験や持続するストレスからの回復を促す専門的援助方法を探究する。

2. 教育目標

- 1) クリティカルな状況にある患者とその家族の体験や苦悩について理解を深める。
- 2) 衝撃的な体験や持続するストレスに対する身体的・心理的反応を説明する代表的な理論について理解する。
- 3) 理論を用いて事例を分析し、危機的状況からの回復を促す援助方法について述べることができる。

3. 教育内容：

- ①② ガイダンス／クリティカルな状況にある対象および家族の特性
- ③④ 危機的状況にある患者と家族を援助するための理論
（ストレスコーピング理論 その1）
- ⑤⑥ 危機的状況にある患者と家族を援助するための理論
（ストレスコーピング理論 その2）
- ⑦⑧ 危機的状況にある患者と家族を援助するための理論（危機理論）
- ⑨⑩ 危機的状況にある患者と家族を援助するための理論（悲嘆理論）
- ⑪⑫ 危機的状況にある患者と家族を援助するための理論（レジリエンス）
- ⑬ 危機的状況にある患者と家族を援助するための理論（ボディイメージ－自己概念）
- ⑭⑮ 危機的状況にある患者と家族を援助するための理論の応用（事例検討）

4. 教育の進め方：

講義および学生によるプレゼンテーションに基づいて、学生が主体的に討議を展開し理解を深める。

- 1) 講義 ①②③④⑤⑦⑧⑪⑫⑬
- 2) プレゼンテーション ⑥⑨⑩⑭⑮

【教科書・参考図書】各回において適宜提示する。

【事前学習】講義：各回で取り上げる理論についてまとめ、疑問点を整理しておく。

発表：発表資料を作成し、討議内容を明らかにしておく。

【事後学習】講義・討議内容を振り返り、復習する。

5. 成績評価方法：プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

クリティカルケア看護学特論Ⅱ

2単位：30時間（春学期）

科目責任者 伊藤 有美（本学准教授）

1. 教育目的

クリティカルな状況にある患者とその家族を心身統一体としてとらえ、回復に向けたケアとキュアが融合した看護介入の方法について探究する。

2. 教育目標

- 1) クリティカルな状況にある患者に対する援助関係を発展させるために必要な理論を学び、回復を促進するための看護援助の方略を探究する。
- 2) 家族看護理論を学び、クリティカルな状況にある患者家族の援助に必要な看護援助の方法について述べることができる。

3. 教育内容

- ① ガイダンス
- ②③ 急性・重症患者看護専門看護師に求められる役割
- ④⑤ クリティカルな状況にある患者家族の理解（体験理解とアセスメント）
- ⑥⑦ クリティカルな状況にある患者家族に対する看護支援（家族看護論・エンパワーメント）
- ⑧⑨ クリティカルケアを受ける患者に対する臨床推論
- ⑩⑪ クリティカルケアを受ける患者・家族に対する援助ーコンピテンシーに基づく看護実践ー
- ⑫⑬ クリティカルな状況にある患者・家族に対する看護の実際
- ⑭⑮ クリティカルケアを受ける患者・家族に対する看護（まとめ）

4. 教育の進め方：

講義および院生による討議に基づいて、院生が主体的に討議を展開し理解を深める。

- 1) 講義 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑫ 2) 発表・討議 ⑨⑪⑬⑭⑮

【教科書・参考図書】

- 1) 「高度実践看護 統合的アプローチ第2版」 Mary Fran Tracy, Eileen T.O' Grady 著 中村美鈴、江川幸二監訳 へるす出版 2020
- 2) Curley, M. A. (1998). Patient-nurse synergy: optimizing patients' outcomes. American journal of critical care, 7(1), 64.

※その他、各回において提示する。

【事前学習】講義：各回の講義内容について、自身の課題を整理しておく。

発表：講義より自身の課題となるテーマを取り上げ、討議内容を明確にした資料を作成する。

【事後学習】講義・討議内容を復習し、文献的考察を加えてレポートする。

5. 成績評価方法：プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

クリティカルケア看護学特論Ⅲ

2 単位：30 時間（秋学期）

科目責任者 加賀谷 聡子（本学教授）

1. 教育目的：

クリティカルな状況にある患者とその家族に生じやすい倫理的問題について理解し、看護倫理や意思決定に関する諸理論を学び、問題解決のための援助方法について探究する。

2. 教育目標：

- 1) クリティカルな状況において生じやすい倫理的問題について理解を深める。
- 2) 患者および家族の意思決定を支え、倫理的問題を解決するための理論を学び、問題解決に向けた援助方法を探究する。
- 3) 医療チーム内の倫理調整における専門看護師の役割について考察する。

3. 教育内容：

- ① ガイダンス／クリティカルケア領域における倫理
- ②③ 医療および看護倫理の歴史的変遷と倫理に関する諸理論
- ④⑤ クリティカルな状況にある患者と家族に生じる倫理的問題
- ⑥⑦ クリティカルな状況にある患者と家族の意思決定支援
- ⑧⑨ 脳死・臓器移植など最新治療を巡る倫理的問題
- ⑩⑪ クリティカルな状況下の倫理調整における看護師の役割
- ⑫⑬ クリティカルな状況下におけるエンドオブライフケア
- ⑭⑮ クリティカルな状況下における倫理的問題に対する検討（事例検討）

4. 教育の進め方：

講義および学生によるプレゼンテーションに基づいて、学生が主体的に討議を展開し理解を深める。

1) 講義 ①②③④⑤⑥⑧⑨⑫⑬

2) プレゼンテーション ⑦⑩⑪⑭⑮

【教科書・参考図書】各回において適宜提示する。

【事前学習】講義：各回で取り上げる理論についてまとめ、疑問点を整理しておく。

発表：発表資料を作成し、討議内容を明らかにしておく。

【事後学習】講義・討議内容を振り返り、復習する。

5. 成績評価方法：プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

病態治療論

2 単位：30 時間（春学期）

科目責任者 酒井 透江（本学講師）

1. 教育目的

急性・重症患者の身体機能を総合的にアセスメントし、適切な看護援助を実践するための病態生理および治療について学ぶ。

2. 教育目標

- 1) 生体侵襲を受け、臓器の急性機能不全に陥った重症患者の病態および治療について正確に理解する。
- 2) 生体反応を踏まえて、急性重症患者の複雑な身体機能を説明することができる。

3. 教育内容

- ①② 生体侵襲を受けた患者の病態生理
- ③④ 急性呼吸不全患者の病態生理
- ⑤⑥ 急性循環不全患者の病態生理
- ⑦⑧ 脳神経機能障害の患者の病態生理
- ⑨⑩ 多臓器障害患者の病態生理
- ⑪⑫ 熱傷患者の病態生理
- ⑬⑭ 麻酔による生体への影響
- ⑮ 急性・重症患者看護専門看護師に必要とされる病態生理学の知識と判断

4. 教育の進め方：

①から⑭までの講義を受講した上で、討議は院生が主体的に展開し理解を深める。

- 1) 講義 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭ 2) 発表・討議 ⑮

【教科書・参考図書】各回において提示する。

【事前学習】講義：各回の講義内容について、自身の課題を整理しておく。

発表：講義より自身の課題となるテーマを取り上げ、討議内容を明確にした資料を作成する。

【事後学習】講義・討議内容について復習し、文献的考察を加えてレポートする。

5. 成績評価方法：プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

クリティカルケア看護学演習 I

2 単位：60 時間（秋学期）

科目責任者 伊藤 有美（本学准教授）

1. 教育目的

急性・重症患者の複雑な病態や身体機能に対して用いられる治療や処置などの全身管理について理解を深め、患者・家族中心の看護を提供するための適切な援助を探究する。

2. 教育目標

- 1) 急性・重症患者に用いられる治療や処置の目的と根拠を述べることができる。
- 2) 複雑な治療や処置に伴う急性・重症患者の身体的・心理的变化を捉えて包括的にアセスメントすることができる。
- 3) 急性・重症患者に用いられる治療や処置の選択や評価について、Evidence Based Practice の観点から探究し、述べることができる。

3. 教育内容
- ①② 重症患者の栄養管理
 - ③④ 重症患者の創傷管理
 - ⑤⑥ 重症患者の体液管理
 - ⑦⑧ 重症患者の薬物療法
 - ⑨⑩ ICU における感染予防対策
 - ⑪⑫⑬ 人工呼吸管理中の患者の看護援助（1）
 - ⑭⑮ 人工呼吸管理中の患者の看護援助（2）
 - ⑯⑰ 非侵襲的人工呼吸療法および酸素療法中の患者の看護援助
 - ⑱⑲⑳ 補助循環装置装着中の患者の看護援助
 - ㉑㉒ 急性期心臓リハビリテーションを実施する患者の看護援助
 - ㉓㉔ 集中治療を受ける患者の早期リハビリテーション
 - ㉕㉖ 嚥下障害患者の評価とリハビリテーション
 - ㉗㉘ 急性血液浄化法を受ける患者の看護援助
 - ㉙㉚ 集中治療をうける高齢者患者の看護援助

4. 教育の進め方：

講義および院生による討議に基づいて、院生が主体的に討議を展開し理解を深める。

- 1) 講義 ①③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚、2) 発表・討議 ㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚

【事前学習】講義：各回の講義内容について、自身の課題を整理しておく。

発表：講義より自身の課題となるテーマを取り上げ、討議内容を明確にした資料を作成する。

【事後学習】講義・討議内容について復習し、文献的考察を加えてレポートする。

5. 成績評価方法：プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

クリティカルケア看護学演習Ⅱ

2単位：60時間（秋学期）

科目責任者 伊藤 有美（本学准教授）

1. 教育目的

クリティカルな状況にある患者と家族の全人的苦痛を緩和するための看護ケアについて学ぶ。

2. 教育目標

- 1) クリティカルな状況にある患者・家族の全人的苦痛について理解を深め、アセスメントする知識を修得する。
- 2) クリティカルな状況にある患者・家族の苦痛を緩和するための理論と方法及び評価について探究する。
- 3) クリティカルな状況にある患者・家族の苦痛を支援する専門看護師の役割および課題について理解を深める。

3. 教育内容

- ① ガイダンス
- ②③ クリティカルな状況にある患者の全人的な苦痛の理解
- ④⑤ クリティカルな状況にある患者の症状マネジメント
- ⑥⑦ クリティカルな状況にある患者の苦痛緩和の援助 ― 痛み
- ⑧⑨ クリティカルな状況にある患者の苦痛緩和の援助 ― 呼吸困難、その他の症状
- ⑩⑪ クリティカルな状況にある患者の苦痛緩和の援助 ― せん妄
- ⑫⑬ クリティカルな状況にある患者の苦痛緩和の援助 ― 鎮静管理
- ⑭⑮ クリティカルな状況にある患者の苦痛緩和の援助 ― 術後痛
- ⑯⑰ クリティカルな状況にある患者の苦痛に対する介入の評価
- ⑱⑲ クリティカルな状況にある患者・家族の心理・社会的苦痛に対する援助
- ⑳㉑ クリティカルな状況にある患者・家族の苦痛緩和に必要なとされるコンサルテーションの実際
- ㉒㉓ クリティカルな状況にある患者・家族に対する苦痛緩和の援助（ベッドサイド演習1）
- ㉔㉕ クリティカルな状況にある患者・家族に対する苦痛緩和の援助（ベッドサイド演習2）
- ㉖㉗ クリティカルな状況にある患者・家族に対する苦痛緩和の援助（ベッドサイド演習3）
- ㉘㉙㉚ クリティカルな状況にある患者・家族に対する苦痛緩和の援助の分析と評価（事例検討）

4. 教育の進め方：

講義と学生の討議に基づき、学生が主体的に討議を展開し理解を深める。病院においてベッドサイド演習を行い、講義で学んだことを実際の看護援助場面から理解を深め、さらに事例検討により看護援助の方略を検討する。

- 1) 講義 ①②④⑥⑧⑩⑫⑭⑯⑱⑲⑳㉑ 2) 発表③⑤⑦⑨⑪⑬⑮⑰⑲㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚
- 3) ベッドサイド演習 ㉒ー㉗

【教科書・参考図書】

- 1) Devlin, John W., and Yoanna Skrobik. “集中治療室における成人患者の痛み、不穏/鎮静、せん妄、不眠、睡眠障害の予防および管理のための臨床ガイドライン。” (2018).

※その他、各回において提示する。

【事前学習】講義：各回で扱う取り扱うテーマに関連する内容について、自身の課題を整理しておく。

発表：講義より自身の課題となるテーマを取り上げ、討議内容を明確にした資料を作成する。

【事後学習】講義・演習・討議内容について振り返り、文献的考察を加えてレポートする。

5. 成績評価方法：プレゼンテーション（40%）レポート〔ベッドサイド演習レポート、課題レポート〕（60%）

クリティカルケア看護学演習Ⅲ

2単位：60時間（秋学期）

科目責任者 加賀谷 聡子（本学教授）

1. 教育目的：救命救急において様々な患者に対応できるように、病態生理、治療・処置に関する知識を深め、専門的な看護実践を行うための能力を養う。

2. 教育目標：

- 1) 救命救急看護の対象となる患者の看護問題に対して適切な看護援助を探究することができる。
- 2) 救命救急看護の対象となる患者の看護援助について、最新の研究成果や知識を活用して考えることができる。
- 3) 救命救急看護の対象となる患者の看護において、専門性を発揮していくために必要とされる専門看護師の役割と機能について探究することができる。

3. 教育内容：

- | | |
|-----|---|
| ① | ガイダンス |
| ②③ | 救命救急治療を受ける患者・家族に対する初期対応 — トリアージ |
| ④⑤ | 救命救急治療を受ける患者・家族に対する初期対応 — 災害看護 |
| ⑥⑦ | 外傷患者・家族のアセスメントと看護援助 |
| ⑧⑨ | 熱傷患者・家族のアセスメントと看護援助 |
| ⑩⑪ | 脳血管障害患者・家族のアセスメントと看護援助 |
| ⑫⑬ | 急性腹症患者・家族のアセスメントと看護援助 |
| ⑭⑮ | 中毒患者・家族のアセスメントと看護援助 |
| ⑯⑰ | ショック・CPA 患者・家族のアセスメントと看護援助 |
| ⑱⑲ | 救急時の処置と看護援助 |
| ⑳㉑ | 救命救急治療を受ける患者・家族に対する援助 — Rapid Response System |
| ㉒㉓ | 救命救急看護に必要とされる看護援助方法の検討（ベッドサイド演習1） |
| ㉔㉕ | 救命救急看護に必要とされる看護援助方法の検討（ベッドサイド演習2） |
| ㉖㉗ | 救命救急看護に必要とされる援助方法の検討（事例検討） |
| ㉘㉙㉚ | 救命救急看護における高度実践看護師の役割の考察・まとめ |

4. 教育の進め方：

講義および学生によるプレゼンテーションに基づいて、学生が主体的に討議を展開し理解を深める。病院においてベッドサイド演習を行い、講義や文献検討で学んだことを実際の看護援助場面から理解を深め、更に事例検討を行うことで看護援助の方向性を見出す。

1) 講義 ①②③④⑤⑥⑧⑩⑫⑭⑯⑰⑱⑲⑳

2) プレゼンテーション ③④⑦⑨⑪⑬⑮⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕ 3) ベッドサイド演習 ㉒㉓㉔㉕

【教科書・参考図書】各回において適宜提示する。

【事前学習】講義：各回で取り上げる理論についてまとめ、疑問点を整理しておく。

発表：発表資料を作成し、討議内容を明らかにしておく。

【事後学習】講義・演習・討議内容を振り返り、文献的考察を加えてレポートする。

5. 成績評価方法：プレゼンテーション（40%）レポート〔ベッドサイド演習レポート、課題レポート〕（60%）

クリティカルケア看護学実習Ⅰ：役割実習

2単位：90時間（春・秋学期）

科目責任者 加賀谷 聡子（本学教授）

1. 教育目的

高度実践看護師の6つの役割のうち、主に教育、相談、調整、倫理調整について、急性・重症患者看護専門看護師の活動を通して学び、急性・重症患者専門看護師に求められる役割を探究する。

2. 教育目標

- 1) 急性・重症患者看護専門看護師に求められている役割と機能について説明できる。
- 2) 急性・重症患者看護専門看護師の役割を担うための自己の課題を明確にできる。

3. 実習内容

- 1) 急性・重症患者看護専門看護師に同行し、急性・重症患者看護専門看護師としての諸活動が行われている場に主体的に参加することを通して、その役割と機能を理解する。
- 2) 急性・重症患者看護専門看護師に必要な知識・技術・態度を、見学を通して学ぶ。
- 3) 役割実践については、専門看護師の指導のもと、可能な範囲で実施する。
 - ・ 教育：他の看護職者への教育を、講義・演習で培った知識や技術をもとに、指導者とともに実践する。
 - ・ 相談：複雑で困難な実践状況において、クリティカルケア看護の専門的立場での相談や意見の提供を指導者と共に実践し、コンサルテーションのあり方について学ぶ。
 - ・ 調整：複雑な問題を有する事例に対し、継続したケア提供を円滑に実施するために、他職種との連携、調整のあり方について学ぶ。
 - ・ 倫理調整：クリティカルケア看護分野における倫理的課題を抽出し、患者・家族、ケア提供者間に立ち、問題解決や対処のため様々な検討を行い、倫理調整のあり方を学ぶ。

4. 教育の進め方：

- 1) 実習場において実習担当教員の指導と急性・重症患者看護専門看護師を始めとする各施設の実習担当者の指導を受けながら実習を進める。
- 2) 専門看護師の役割（教育、調整、相談、倫理調整）について実習した内容を記録し、実習目標達成のための実習計画を作成し、修正をしながら実行する。
- 3) 実習終了後は専門看護師とカンファレンスを行い、学んだ内容について検討し、自己の課題を見出す。

5. 実習施設：杏林大学医学部附属病院（高度救命救急センター、集中治療室、ハイケアユニット他）

6. 成績評価方法：日々の実習記録およびカンファレンスの内容（40%）、最終提出レポート（60%）にて評価する。

クリティカルケア看護学実習Ⅱ：高度実践看護実習（集中治療領域）

3単位：135時間（春・秋学期）

科目責任者 伊藤 有美（本学准教授）

1. 教育目的

集中治療領域でクリティカルケアを必要とする患者に対する直接的な看護実践において、急性・重症患者看護専門看護師に必要とされる高度な看護実践能力を修得できるようにする。クリティカルケア看護の専門性および特殊性を踏まえ、高度なアセスメント能力とエビデンスに基づく的確な臨床判断ができる能力を養う。

2. 教育目標

- 1) クリティカルな状況にある患者・家族に対し、クリティカルケア看護の専門性、特殊性を踏まえたアセスメントと臨床判断ができる。
- 2) 病態生理、治療に伴う臨床判断と高度なケア技術を融合させながら、クリティカルな状況にある患者および家族に対して看護実践ができる。
- 3) 看護実践を論理的に評価し、今後の課題も含めて考察することができる。

3. 実習内容

- 1) 複雑で困難な問題を有する対象に対し、個別に応じたケア提供方略、アセスメント、ケアプランを作成する。
- 2) ケアプランに基づいて看護実践を行い、実践の結果を論理的に評価する。

4. 教育の進め方

- 1) 集中治療室にて治療を受けている複雑で困難な問題を有する患者を受け持ち、看護を実践する。
- 2) 実習施設において実習担当教員および急性・重症患者看護専門看護師を始めとする各施設の実習担当者の指導を受けながら実習を進める。なお、診断・治療に伴う臨床判断、身体管理については、急性期医療を専門とする医師の指導も受けながら実習を進める。
- 3) 実習した内容を記録し、実習目標達成に向けて実習計画を修正しながら進めていく。また、適宜クリティカルケアチームメンバーや専門看護師、教員とカンファレンスをもち、実践の評価・検討を行う。
- 4) 実践した内容に基づいてケースレポートを作成し、ケース検討会を行う。

5. 実習施設：杏林大学医学部附属病院（中央集中治療室）

6. 成績評価方法：臨地実習記録（40%）、最終提出レポート（60%）にて評価する。

クリティカルケア看護学実習Ⅲ：高度実践看護実習（救命救急領域）

3単位：135時間（春・秋学期）

科目責任者 伊藤 有美（本学准教授）

1. 教育目的

救命救急領域でクリティカルケアを必要とする患者に対する直接的な看護実践において、急性・重症患者看護専門看護師に必要とされる高度な看護実践能力を修得できるようにする。クリティカルケア看護の専門性および特殊性を踏まえ、高度なアセスメント能力とエビデンスに基づく確な臨床判断ができる能力を養う。

2. 教育目標

- 1) クリティカルな状況にある患者・家族に対し、クリティカルケア看護の専門性、特殊性を踏まえたアセスメントと臨床判断ができる。
- 2) 病態生理、治療に伴う臨床判断と高度なケア技術を融合させながら、クリティカルな状況にある患者および家族に対して看護実践ができる。
- 3) 看護実践を論理的に評価し、今後の課題も含めて考察することができる。

3. 実習内容

- 1) 複雑で困難な問題を有する対象に対し、個別に応じたケア提供方略、アセスメント、ケアプランを作成する。
- 2) ケアプランに基づいて看護実践を行い、実践の結果を論理的に評価する。
- 3) トリアージ実践に参加し、トリアージプロセスを評価し、課題を明確にする。

4. 教育の進め方

- 1) 救命救急センターにて治療を受けている複雑で困難な問題を有する患者を受け持ち、看護を実践する。また、救急外来にて、医師およびトリアージナースの指導のもと、トリアージ実践に参加し、可能な範囲で実習を展開する。
- 2) 実習場において実習担当教員および急性・重症患者看護専門看護師を始めとする各施設の実習担当者の指導を受けながら実習を進める。なお、診断・治療に伴う臨床判断、身体管理については急性期医療を専門とする医師の指導も受けながら実習を進める。
- 3) 実習した内容を記録し、実習目標達成に向けて実習計画を修正しながら進めていく。また、適宜クリティカルケアチームメンバーや専門看護師、教員とカンファレンスをもち、実践の評価・検討を行う。
- 4) 実践した内容に基づいてケースレポートを作成し、ケース検討会を行う。

5. 実習施設：杏林大学医学部附属病院（高度救命救急センター）

杏林大学医学部附属杉並病院（救急外来）

6. 成績評価方法：臨地実習記録（40%）、最終提出レポート（60%）にて評価する。

クリティカルケア看護学実習Ⅳ：高度実践看護実習（ポストクリティカルケア）

2単位：90時間（春・秋学期）

科目責任者 加賀谷 聡子（本学教授）

1. 教育目的

ポストクリティカルな状況にある患者に対する直接的な看護実践において、急性・重症患者看護専門看護師に必要とされる高度な看護実践能力を修得できるようにする。クリティカルケア看護の専門性および特殊性を踏まえ、高度なアセスメント能力とエビデンスに基づく的確な臨床判断ができる能力を養う。

2. 教育目標

- 1) ポストクリティカル期にある患者のケア調整やセルフケアに向けた教育的関わりができる。
- 2) 患者および家族に対して行った看護実践を評価し、今後の課題も含めて考察することができる。

3. 実習内容

- 1) クリティカルケア看護実習Ⅱで受け持った患者を引き続きポストクリティカル期で受け持ち、個別に応じたケア提供方略、アセスメント、ケアプランを作成し、質の高い卓越した看護実践を行う。また、実践したケアに対する評価を行う。
- 2) ポストクリティカル期にある患者のケア調整やセルフケアに向けた教育的関わりを行う。

4. 教育の進め方

- 1) クリティカルケア看護実習Ⅱで受け持った患者を引き続きポストクリティカル期で受け持ち、複雑で困難な問題に対する看護を実践する。
- 2) 実習場において実習担当教員および急性・重症患者看護専門看護師を始めとする各施設の実習担当者の指導を受けながら実習を進める。なお、診断・治療に伴う臨床判断、身体管理については、急性期医療を専門とする医師の指導も受けながら実習を進める。
- 3) 実習した内容を記録し、実習目標達成に向けて実習計画を修正しながら進めていく。また、適宜クリティカルケアチームメンバーや専門看護師、教員とカンファレンスをもち、実践の評価・検討を行う。
- 4) 受け持ち終了後、ケースレポートを作成し、ケース検討会を行う。

5. 実習施設： 杏林大学医学部付属病院（ハイケアユニット、他）

6. 成績評価方法： 臨地実習記録（40%）、最終提出レポート（60%）にて評価する。